（社）日本コンクリート工学協会四国支部

第６回「フライアッシュの有効利用と混和コンクリート構造物の耐久性に関する研究委員会」議事録（案）

１．日　時：平成 20 年１月 23 日（水）　13:30～16:30

２．場　所：徳島大学工学部建設棟３Ｆ　A303

３．出席者：上田委員長，天羽，石井，一宮，唐渡，上路，河野，山地，橋本，原田，堀井，横田，横手，吉川（代理：松田氏），渡邉の各委員

（敬称略，順不同）　　以上　１５名

４．配布資料：

6-0　JCI 四国支部第６回「フライアッシュの有効利用と混和コンクリート構造物の耐久性に関する研究委員会」議事次第

6-1　JCI 四国支部第５回「フライアッシュの有効利用と混和コンクリート構造物の耐久性に関する研究委員会」議事録（案）

6-2　JCI 四国支部第５回「フライアッシュの有効利用と混和コンクリート構造物の耐久性に関する研究委員会」議事録（案）ＨＰ用

6-3　報告書表紙・序文・委員構成（案）

6-4　報告書第１章原稿案（WG1）

6-5　報告書第２章原稿案（WG1）

6-6　研究事例データベースリスト

6-7　報告書 2.3 施工性能の向上に関する検討

6-8　フライアッシュ混和既設コンクリート構造物の調査

6-9　フライアッシュⅡ種をセメントの一部代替使用したときのコンクリート性状の確認

6-10　報告書 3.4 塩害による鉄筋腐食に関する検討，3.5 ASR 抑制メカニズムの検討

５．議　事：

(1) 委員長挨拶

上田委員長より第６回研究委員会開催にあたっての挨拶があった．

(2) 前回議事録（案）の確認

資料 6-1 の第５回研究委員会議事録（案）が上田委員長より説明され，異議なく承認された．

(3) 成果報告書について

資料 6-3 により成果報告書の表紙，序文および委員構成ページ案が上田委員長から説明された．

(4) 各 WG の報告書原稿案について

各 WG 主査から報告書原稿案の説明があり，議論の結果，以下の点が確認された．

- 第１章では，資料 6-4 に示すようにアンケート結果の整理と分析を示す．今後は，客観的なデータの説明のみではなく，データの背景や今後の方針などについての考察も積極的に記述していく．さらにアンケートの対象とした，発注者，施工業者，生コン会社，二次製品メーカー，FA 発生者の相関関係を集計結果から抽出し，相関図で表すことを検討する．
- 第２章に関しては，資料 6-6 に示すように文献リストがほぼまとまっている．今後は文献リストおよび文献カードの作成を進め，報告書としての体裁を整えていく．実験的検討については，徳島大学と阿南高専での検討結果を報告書原稿として仕上る．
- 第 3 章に関しては，資料 6-8 に示すように，既設構造物調査がほぼ完了し，FA コンクリートの長期的諸特性を無混和コンクリートとの比較で示す．実験的検討は，徳島大学，高知高専および大和生コンでの検討結果を報告書原稿として仕上る．

(5) 今後の予定

上田委員長から今後の方針として以下が確認された．

- 今回の議論を踏まえて各WGで報告書の執筆を進め，次回の委員会では資料として報告書原稿案を提出する．なお，各 WG の主査は，報告書の各章の終わりにまとめの項を入れることとする．
- 次回委員会を本委員会の最終回とし，報告書原稿の最終チェックを行うこととする．

６．次回の予定：日時：平成 20 年３月 27 日（木）13:30～，　場所：徳島大学工学部

報告者：上田

以　上